

第 78 回国連総会第 1 委員会 (2023 年 10 月)

日本提案決議「核兵器のない世界に向けた共通のロードマップ構築のための取組」採択にあたっての態度表明から

2023 年 12 月 21 日 高草木 博

第 78 回国連総会第 1 委員会審議での日本政府主導の決議案 L.30「核兵器のない世界に向けた共通のロードマップ構築のための取組」の採択結果は、賛成 145、反対 7、棄権 29 であった (投票日時=10 月 27 日。12 月の総会では賛成が 148、反対と棄権は第 1 委員会と同じ)。

反対 7 カ国は、中国、北朝鮮、イラン、ニカラグア、シリア、ロシア、南アフリカ。

棄権の中には核兵器禁止をリードしている国が多数含まれている (オーストリア、アイルランド、ブラジル、インドネシア、マレーシア、アルジェリア、エジプト、ニュージーランドなど)。賛成を投じた国のなかにも、投票声明で手厳しい批判や注文を付けた国が少なくない。これも 1 つの特徴。

第 1 委員会の採択では、22 カ国がそれぞれ投票声明をおこなった。以下、テキストが発表されているスイス (賛成)、メキシコ (賛成)、エジプト (棄権)、南ア (反対) の投票声明を訳出する。

なお、決議案の日本語訳はインターネットで探したが、外務省の HP には昨年のも (第 77 回総会) しか見当たらない。探し方が悪いのか、恥ずかしいからやめたのか不明。英語版は RCW の HP にある。日本語訳は昨年の類似の決議が外務省の HP で入手可能。

### スイス：

「核兵器のない世界に向けて共通のロードマップ構築のための取組」と題する決議案 L.30 に関し、我々は、核不拡散条約第 10 回再検討会議の後を受けて共通の基盤を見つけ、昨年の決議と比べてテキストに一連の修正を施した日本の努力を評価する。

我々は、決議に賛成票を投じてはいるが、その組み立ての一部といくつかのパラグラフ (複数) の言い回しには懸念を持っている。一部のパラグラフは核軍備撤廃義務の履行に条件を付けているように読める (訳注：「安全保障環境の悪化」など、条件がなければ履行しなくてもいいかのような言い方のこと)。別のパラグラフ、とりわけ前文第 6 パラグラフは核軍備の質量にわたる開発が、もし透明なやり方でなされるなら何の懸念もないかのようなあいまいな表現を導入している。そのようなあいまいさがつづくことを再検討するよう起案者に促したい。

### メキシコ：

我々は核兵器のない世界へのロードマップを確立し、効果的な多国間主義と国際法の支配によって平和を維持することが必要であると確信している。だから一般的な意味で我々は決議案 L.30 の目的に賛成である。メキシコはこのイニシアチブを評価する。それが、核兵器のない世界の達成という目標に向かって動くために大変重要な一連の問題に関し本総会で合意を達成することを追求しているからである。メキシコは、日本がとりわけ危機的な現在の国際的背景のなかで引きつづき共同行動の道を追っていることを称賛する。

これらすべての理由により、また日本との優れた両国関係のゆえにメキシコは決議案 L.30 に賛成した。しかしながらこの決議案がまたも核軍備撤廃に関し具体的な行動を欠き、過度にリスク軽減手段を重視し、核兵器国が持つ軍備撤廃措置の義務や約束の履行を引きつづき条件付きのものとしていることを遺憾に思う。

これらが、我々がなぜ案文の一部を明確に支持できなかったかを示す理由の一部だ。いくつかのパラグラフの言い回しは NPT 締約国が約束した以前の合意について解釈を変え、弱め、後退している。とくに条約第 6 条に含まれる義務や規定、そして核兵器国が特別の責任を持つ行動についてだ。実効パラグラフ 2 ではわずかに改善されていることに留意するが、それは消極的安全保障 (NSAs) に明確に言及せず、非核兵器地帯 (NWFZs) の柱の 1 つを損ねて軍事同盟による保証にドアを開いている。メキシコは引き続き、消極的安全保障がもっとも適切な、多国間フォーラムで交渉された拘束力を持つ法的文書の対象とされるべきことを主張する。

実効パラグラフ 11 に関してメキシコは安保理決議が打ち出した朝鮮半島非核化を支持している。しかしながらことしのテキストの「ステータス (地位)」という用語には反対であることを明確にしておく。メキシコは、核兵器がそれを保有していることをもって特別の地位を付与するものとの考えを拒否する。NPT はいかなる地位もカテゴリーも設けるものでなく、したがってこの言葉の用法は、法的に — 従って政治的にも — NPT に反する。我々は、すべての義務と約束を、核兵器国をはじめとする NPT のすべての締約国が無条件に履行することにより、NPT が打ち立てた体制が強められるようこの決議の起草者たちと対話をつづける意思を表明する。

## エジプト:

1. 日本を主な提案国として提出された「核兵器のない世界に向けた共通のロードマップ構築のための取組」と題する決議案 L.30 号に関し、投票前に我々の態度を説明したい。

2. はじめに我々の友人でありパートナーである日本との伝統的に積極的な関わりを強調する必要がある。日本は核兵器使用の犠牲となった唯一の国としてそのもっとも抗しがたい歴史から、核兵器のない世界へとトーチを掲げ世界的な努力をリードする際立った立場にある国である。

3. 主たる提案国側の善意に留意しつつも、大変残念なことだがこの決議案は引き続き我が国やこの会議に出席している他のいくつかの代表団にとって異議あるものとなっている。昨年 of 文案をめぐる厳しい不一致にもかかわらず、ことしの決議案はさらなるレベルの複雑な問題を付け加えている。

4. 我々が賛成できないこの長文で難解なテキスト一つひとつのパラグラフや言い回しに触れるのは極度に困難であるが、懸念と憂慮についてベストを尽くして以下に要約する。

5. 第 1 に、核兵器国の責任と彼らの核軍備を廃絶する法的義務と政治的道義的誓約を希釈し後退させていると受け取れるいかなる言い回しも、我々は支持する立場にはない。例えば前文第 4、第 15、本文第 1、第 8 パラグラフだ。

6. 第 2 に、エジプトは現在もこれからも核不拡散条約 (NPT) の一体性と信頼性の維持・追求と緊急の問題としての普遍性の達成追求の熱烈な擁護者でありつづける。核軍備撤廃・不拡散体制の土台として、NPT の要は核軍備撤廃と不拡散と核エネルギーの差別のない平和利用の援助の 3 つの柱の間のバランスにある。これらの柱は相互に関連し、互いに強め合うものであり、包括的かつバランスの取れたやり方で履行されなければならない。この決議案のいくつかのパラグラフはこの決定的に重要なバランスを欠き、あるいは核の安全と保安の問題を恣意的に扱っている。例えば前文第 3、同第 20、本文第 10 パラグラフだ。

7. 第 3 に、新たな非核兵器地帯に関する前文パラグラフ 2 の言い回しは、この点でもっとも広く使われている表現を反映していない。本委員会は、適当なところではなく非核兵器地帯が存在しないところに新たな地帯を作ることを奨励すべきである。中東の非核

兵器地帯に関する前文 14 パラグラフの言い回しはもちろんもっと強く、NPT 再検討会議と国連の幾多の成果が示す大望にマッチしたものとすべきであった。

8. 第 4 に、我々はまた、手つづきのあるいは制度的に合意されていない慣行を支持し、あるいは無神経に、支離滅裂なやり方でアイデアを混ぜ合わせたパラグラフに懸念を持っている。つまり前文第 5、6、7、20 パラグラフ、本文第 4、5、7 パラグラフのことである。

9. 要するに、我々は、このテキスト全体にある一貫して広がりつつある意見の相違が核兵器廃絶の目的を損ない、次の NPT 再検討会議の準備プロセスを複雑にしかねないことに心を痛めている。次回 NPT 再検討会議は意義ある成果を絶対にあげなければならないのだ。

10. これらの理由からエジプトは今回も決議案 L.30 に棄権し、切り離し投票の対象とされた一連のパラグラフには棄権ないし反対票を投じる。こうした立場をとらざるを得ないようなことは今回限りとなり、来年が新たなスタートとなることを心から望んでいる。

## 南アフリカ：

「核兵器のない世界に向けた共通のロードマップ構築のための取組」と題する決議案 L.30 に関する投票説明のため発言する。

NPT は世界の核軍備撤廃と不拡散体制の土台であり、核エネルギーの平和利用、科学、技術の恩恵を共有する国際協力の枠組みである。NPT の未来、強さ、信頼、存立の鍵は、その 3 つの相互に強め合う柱にまたがる根底的な取引にかかっており、それは認められ、守られなければならない。提案されている決議 L.30 の現在の構成は、この大取引自体を否定しようとしながら、核軍備撤廃という基本的な柱を葬り去るものだ。これは NPT が連続して再検討会議に失敗しているときにゆっくりとだが確実に条約の一体性を破壊する重大な脅威を与えるものだ。南アフリカは、この決議案が核軍備撤廃のための条件を増やす一方で、一連の核心的なパラグラフで顕著にかつ意図的に核兵器国がおこなった軍備撤廃の明確な約束にかかわる義務に目をふさいでいることを憂慮する。

要するに、提案されている決議は、核軍備撤廃の約束と核兵器のない世界への到達との間に隔たりを作る、合意された NPT 用語のアンバランスで不正確な引用を使っている。それは、核兵器の保有、維持、近代化のリスクを小さく見せることで、核兵器の保持をより飲み込みやすくしようとしている。また、非核兵器地帯の文脈では非核兵器国への安全保障の資格のレベルをなお維持しているが、核同盟や核による拡大安全保障に有利に解釈できる安全保障や約束を支持している。

我々は、昨年来、この決議案を調整する日本代表団の努力に留意してきた。だが、この努力はごく限られたもので、非公式協議で出されたほとんどすべての提案は考慮されなかった。しかしながら、その結果多くの矛盾や我々になじみのない文言が含まれることになり、核軍備撤廃の作業を進める上で私たちに助けるのではなく、むしろ難題を生み出すものとなった。核兵器の実験、使用、使用の威嚇の破滅的影響からして、核軍備の撤廃に必要な措置はただ 1 つしかなく、それは明確に定義されたベンチマークと期限をもった緊急行動である。

もしこれが NPT の次回再検討会議に向けた前進の基礎とされるなら、それは条約の将来にとって良い兆候はなく、無期限延長の信頼性に疑問を投げかけるものだ。この理由から、また、ますます多くの国が拡大核安全保障に加わり、抑止力ドクトリンを支持することで浸食されている核のタブーを守るため、南アフリカは本決議案およびそこに含まれる主要なパラグラフに反対票を投じるものである。

=====English=====

## **Switzerland**

Regarding draft resolution L.30 entitled “Steps to building a common roadmap towards a world without nuclear weapons”, we appreciate Japan’s efforts to find common ground in the wake of the 10th Review Conference on the Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons (NPT RevCon) and a number of amendments to the text compared to the version submitted last year. If we voted in favour of the resolution, we remain concerned by part of its framing, as well as the wording of certain paragraphs. Some could be read as conditioning the fulfilment of nuclear disarmament obligation. Others introduce ambiguities, notably pp6, which seem to suggest that the quantitative and qualitative developments of nuclear arsenals would not raise concern if done in a transparent manner. We invite its author to reassess such ambiguities going forward.

## **Mexico:**

We are convinced of the necessity of establishing a roadmap towards a world without nuclear weapons and maintaining peace through effective multilateralism and the primacy of international law. Therefore, we agree in general terms with the objective of draft L.30. Mexico values this initiative because it seeks to achieve agreement in the General Assembly on a set of issues of great importance in order to move towards the goal of achieving a nuclear-weapon-free world. Mexico commends Japan for continuing to seek paths of convergence, especially in the current critical international context. For all these reasons, and because of the excellent bilateral relations with Japan, Mexico supported draft resolution L.30. However, we regret that the draft resolution once again omits concrete actions on nuclear disarmament, focusing too much on risk reduction measures, and continues to condition the fulfilment of disarmament obligations and commitments undertaken by nuclear-weapon States.

These are among the reasons why we could not explicitly support some paragraphs in the draft. The wording in several paragraphs reinterprets, weakens, or backtracks on previous agreements undertaken by the Parties to the NPT, especially the obligations and provisions contained in Article VI of the Treaty, and actions where Nuclear-Weapons States bear special responsibility. While we notice a slight improvement in operative paragraph 2, it does not explicitly refer to negative security assurances (NSAs) and opens the door to assurances for military alliance, to the detriment of one of the pillars of Nuclear Weapon-Free zones (NWFZs). Mexico will continue to advocate that NSAs should be the subject of a legally binding instrument, negotiated in the most appropriate multilateral forum.

Regarding operative paragraph 11, Mexico has supported the denuclearization of the Korean Peninsula as set out in Security Council resolutions. However, we must be clear in our opposition to the use of the term "status" in this year's text. Mexico rejects the idea that nuclear weapons grant a special status to countries simply for possessing them. The Nuclear Non-Proliferation Treaty (NPT) does not establish any status or category, and therefore the use of this word is contrary in legal - and political - terms to the NPT. We express our willingness to continue dialoguing with the authors of this resolution, to strengthen the regime established by the NPT, through the implementation of all obligations and commitments, by all parties to the NPT, starting with the Nuclear-Weapon States, without any conditions. Thank you.

## **Arab Republic of Egypt :**

Mr. Chairperson,

1- My delegation wishes to explain its vote before the vote on draft resolution L.30 entitled “Steps to building a common roadmap towards a world without nuclear weapons”, as presented by its main sponsor Japan.

2- I need to underline at the outset our traditional positive engagement with our friends and partners, Japan. Japan with its most compelling history, as the only victim of the use of nuclear weapons, is in an outstandingly qualified position to carry the torch and lead global efforts towards a world free of nuclear weapons.

3- While we take note the good intentions on the side of the main sponsor, very regretfully this draft resolution continues to be challenging to this delegation and several other delegations under the roof of this chamber. Albeit the severe disagreements around last year's text, this year's draft resolution brings additional levels of complexities. Mr. Chairperson,

4- Since it is extremely difficult to touch on each and every paragraph and language that we disagree with across this lengthy and substantively dense text, we will do our utmost to summarize our reservations and concerns in the following:

5- First: Once again we are not in a position to support any language which can be perceived as dilution or backtracking of responsibilities of Nuclear Weapon States and their existing legal obligations and political and moral commitments to eliminate their nuclear arsenals. Examples are: pp4, pp15, op1 and op8.

6- Second: Egypt is and will continue to be a fierce defender of the quest to preserve the integrity and credibility of the Non-Nuclear Weapons Proliferation Treaty NPT, and the quest to achieve its universality as a matter of urgency. As the cornerstone of nuclear disarmament and nonproliferation regime, the essence of the NPT bases itself on the balance between the three pillars of nuclear disarmament, non-proliferation and facilitation of peaceful uses of nuclear energy without discrimination. These pillars are interrelated and mutually reinforcing, and must be implemented in a comprehensive and balanced manner. Some paragraphs of this draft resolution fail to capture this crucial balance or arbitrarily addresses issues of nuclear safety and security. Case in point are: pp3, pp20 and op10.

7- Third: The language of PP12 on new nuclear weapons free zones does not reflect the most commonly used expressions in this regard. This Committee should be encouraging new nuclear weapons free zone where they do not exist, not where appropriate. The language in PP14 on the Nuclear Weapon Free Zone in the Middle East, should have certainly been stronger and matching the ambition by dozens of NPT review and UN outcomes.

8- Fourth: We are also concerned with paragraphs that either endorse procedural or institutional un-agreed practices, or insensitively mix ideas in an incoherent manner. I am referring to pp5, pp6, pp7, pp10, op4, op5, and op7.

9- In summary we are occupied that the consistent growing divergence of views around this text can undermine the objective of the total elimination of nuclear

weapons, and can complicate the preparatory process of the upcoming review of the NPT. A meaningful outcome of the next NPT review conference is an absolute must.

10- For these reasons, Egypt will, once again, abstain on draft resolution L.30, and will abstain and vote against a handful of its paragraphs subject to separate vote. Our sincere wish, that this would be the last time we are compelled to be in this position, and that next year brings a fresh start. Thank you.

Regarding draft resolution L.30 entitled “Steps to building a common roadmap towards a world without nuclear weapons”, we appreciate Japan’s efforts to find common ground in the wake of the 10th Review Conference on the Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons (NPT RevCon) and a number of amendments to the text compared to the version submitted last year. If we voted in favour of the resolution, we remain concerned by part of its framing, as well as the wording of certain paragraphs. Some could be read as conditioning the fulfilment of nuclear disarmament obligation. Others introduce ambiguities, notably pp6, which seem to suggest that the quantitative and qualitative developments of nuclear arsenals would not raise concern if done in a transparent manner. We invite its author to reassess such ambiguities going forward.

### **South Africa:**

Chairperson, I take the floor in explanation of vote on draft resolution L.30 entitled “Steps to building a common roadmap towards a world without nuclear weapons.” Chairperson, The NPT remains the cornerstone of the global nuclear disarmament and nonproliferation architecture, and the framework for international cooperation in sharing the benefits of the peaceful uses of nuclear energy, science, and technology. The key to the future, strength, credibility and vitality of the NPT rests on the fundamental bargain across its three mutually reinforcing pillars, which must be recognized and upheld. The current framing of the proposed resolution L.30 relegates the fundamental pillar of nuclear disarmament while attempting to renege on the grand bargain itself. This poses a significant threat that is slowly but surely destroying the Treaty’s integrity, while it suffers from consecutive failures of Review Conferences. South Africa is concerned that the draft resolution, in a number of key paragraphs, conspicuously and deliberately omits the obligations of nuclear-weapon States related to their unequivocal undertakings to disarm while reinforcing conditionalities for nuclear disarmament.

Chairperson, In essence, the proposed resolution uses unbalanced and incorrect citation of agreed NPT language that creates distance between nuclear disarmament commitments and ever reaching a world without nuclear weapons. It tries to make retaining nuclear weapons more palatable by reducing the risk of keeping, maintaining and modernizing them. It still maintains levels of qualifications on security assurances to non-nuclear-weapon States in the context of nuclear-weapon-free zones, while favouring security assurances and commitments construed in favour of nuclear alliances and extended nuclear security guarantees.

Chairperson, We have taken note of the efforts of the delegation of Japan to adjust this resolution since last year. However, this effort was very limited and did not take into account almost all proposals made during informal consultations. However, this has resulted in a number of inconsistencies, the inclusion of language that we are not

accustomed to, and consequently would create more of a challenge than assist us in taking forward the work on nuclear disarmament. Given the catastrophic impact of the testing, use and threat of use of nuclear weapons, there is only one step that is required on nuclear disarmament, and that is urgent actions with clearly defined benchmarks and timelines.

Chairperson, If this is the basis on which to move towards the next Review Conference of the NPT, it does not bode well for the future of the Treaty and calls into question the credibility of its indefinite extension. It is for this reason, and in order to defend the nuclear taboo that has been eroded by more and more States becoming part of extended nuclear security guarantees and buying into the deterrence doctrine, that South Africa is voting against this resolution and key paragraphs contained therein. I thank you.